

初あかね

松島の五大堂



庄子 勇夫 (写真部)

はなやま

発行
 社団法人
宮城県芸術協会
 (郵便番号 980-0803)
 仙台市青葉区国分町 3-3-7
 宮城県民会館内
 電話 (022) 261-7055
 F A X (022) 214-5184
 E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
 編集 小山 喜三郎

明けましておめでとうござ
 います。
 昨年は宮城県芸術協会も創
 立四十五周年を迎え、数々
 の記念行事が行われました。
 皆様のご協
 力によりま
 して大きな
 成果をあげ
 ることが出
 来ました。
 厚く御礼申
 しあげま
 す。
 わけても
 第四十六回
 宮城県芸術
 祭の劈頭に
 開催され
 た記念行
 事「芸術ふ
 れあい広場
 Ⅲ」は観客
 と出演者が
 一体となっ
 て楽しむ素
 晴らしい企
 画と構成でコラボレーション
 を展開し、大成功をおさめま
 した。十一の部門を擁する芸
 協だからこそ可能だった内容
 であり、今後の活動を示唆す

芸術への誇り胸に

=年頭のあいさつ=



理事長 小山 喜三郎

る試みでございました。
 記念行事は二月末までカ
 メイ記念展示館で開催され
 る「草創期の十人」第一回
 宮城県芸術祭選抜美術展審査
 員」展で
 終了いたし
 ます。創立
 の歴史を緋
 いてみます
 と、先達の
 方々の情熱
 と純粹さに
 感動さえ
 覚えます。
 今年は、
 芸協が公益
 法人と一般
 法人のいず
 れかの道を
 選択する正
 念場を迎え
 ることとな
 ります。
 「初心忘
 るべから
 ず」会員の
 皆様と共に、自らの芸術活動
 に対する誇りと芸協への想い
 を胸に、新しい道を切り開い
 てまいります。

交流の大切さ実感



小山理事長から表彰状の授与

第46回 県芸術祭が閉幕

平成二十一年九月二十五日に開幕した第四十六回宮城県芸術祭は、多くの成果を上げ十一月二十四日、ホテル仙台プラザで閉会式を行った。

授賞式には各賞の受賞者をはじめ、芸術祭関係者、来賓や芸術会員ら約二百十人が出席した。

芸術祭実行委員長、小山喜三郎理事長の挨拶で閉会式が始められた。小山理事長は挨拶の中で、「ふれあい広場Ⅲは、各部門のコラボによる芸術ならではの一大イベントであり、今年さらには交流の大切さを示唆する芸術祭であった」と述べ「美しく心豊かに一層の

精進を願います」と結んだ。

宮城県環境生活部長今野純一氏の祝辞があり、主催七団体の代表者の紹介があった。

ひきつづき各賞の受賞者の表彰が行われた。当日式典に参加した、芸術祭の各賞受賞者五十六人、宮城県芸術協会功績者九人、地域文化功労文部科学大臣賞二人、宮城県教育文化功労宮城県知事賞七人に各賞が授与された。

メディアアートを会場に書道・工芸・絵画・華道・写真・彫刻展。「北信濃路の文学紀行」の文学散歩。長唄演奏会、音楽会、茶会がそれぞれの会場で開かれた。絵画・書道の巡

回展はえずこホール・登米総合体育館。工芸展は栗原文化会館、写真展は雄勝硯伝統会館で多くの入場者があった。

功績者11人を表彰

閉会式では次の華道部一人、音楽部五人、茶道部五人が功績者として表彰された。

- 〔華道部〕 鈴木花風（仙昇地坊）
- 〔音楽部〕 今井邦男、工藤欣三郎（洋楽） 杵屋和加敏、杵家弥登鈴、千田毅（長唄）
- 〔茶道部〕 熊谷宗成（裏千家） 阿部琴舟（三彩流 菊地南恵 織田流） 渡辺睦仙（大日本茶道学会） 高橋森彦（玉川遠州流）

第46回宮城県芸術祭入場者

- 〔開場式〕（9月25日）せんだいメディアアテーク5F）参加者55人
- 〔書道展〕（9月25日～30日）せんだいメディアアテーク5・6F）355点、入場者2716人
- 〔工芸展〕（9月25日～30日）せんだいメディアアテーク5F）67点、入場者1972人
- 〔芸術ふれあい広場Ⅲ〕（9月27日、せんだいメディアアテーク参加出演者142名）
- 〔文学散歩〕（9月29日～30日、北信濃路の文学紀行）参加者28人
- 〔絵画展〕（10月2日～10月14日）せんだいメディアアテーク5・6F）日本画61点、洋画243点、入場者6225人
- 〔華道展〕（10月2日～10月7日）せんだいメディアアテーク5F）前期32点、後期32点、入場者3735人
- 〔彫刻展〕彫刻部会員とその仲間展2009）（10月2日～10月7日、せんだいメディアアテーク5F）20点、仲間展7点、入場者2685人
- 〔写真展〕（10月2日～10月7日）せんだいメディアアテーク5F）121点、入場者2563人
- 〔茶会〕（10月11日・18日・25日）輪王寺）入場者993人
- 〔音楽会〕（10月17日）仙台市青年文化センター）486人
- 〔長唄演奏会〕（10月18日）仙台市民会館小ホール）入場者157人
- 〔文芸祭〕（10月31日）東京エレクトロンホール宮城会議室）入場者72人
- 〔絵画・書道展大河原展〕（10月22日～10月25日）えずこホール）日本画13点、洋画41点、書42点、入場者251人
- 〔絵画・書道展登米展〕（11月12日～11月16日）登米総合体育館）日本画13点、洋画38点、書39点、入場者413人
- 〔工芸展栗原展〕（11月7日～11月10日）栗原文化会館）50点、141人
- 〔写真展雄勝展〕（11月12日～11月20日）石巻市雄勝硯伝統産業会館）64点、入場者137人
- 〔閉会式〕（11月24日）ホテル仙台プラザ）参加者210人
- 宮城県芸術祭参加行事
- 〔第54回仙台三曲協会定期演奏会〕（10月11日）仙台市民会館大ホール）入場者1100人
- 〔第40回洋舞合同公演〕（11月15日）東京エレクトロンホール宮城）入場者1220人

第46回宮城県芸術祭受賞者

賞 種	部 門	作 品 名	氏 名
宮城県芸術祭賞	書 道 部	紀 映 鍾 詩 (漢 字)	松 木 梅 香 (仙台市)
	工 芸 部	赤 陶 流 文 陶 筥 (陶 芸)	島 見 美 由 紀 (岩沼市)
	絵 画 部 (日 本 画)	放	及 川 聡 子 (柴田町)
	絵 画 部 (洋 画)	A M B I V A L E N C E 9 1 0	森 敏 美 (仙台市)
	彫 刻 部	風	大 槻 俊 之 (仙台市)
	写 真 部	光 の 射 す 場 所 へ	渡 辺 明 (仙台市)
	文 芸 部	オ ウ ン ゴ ー ル (川 柳)	木 田 比 呂 朗 (塩釜市)
宮城県知事賞	書 道 部	よもすがら・・・(かな)	内ヶ崎 勝子 (仙台市)
	工 芸 部	黒釉銀彩椿文大皿(陶芸)	中 山 晴 代 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	「花の音」	梅 森 さ え 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	ふるさととは遠くに・・・	佐々木 和江 (仙台市)
	彫 刻 部	再	生 日 下 育 子 (仙台市)
	写 真 部	月 光	影 山 英 雄 (多賀城市)
	文 芸 部	闇をみつけて (詩)	安 住 幸 子 (仙台市)
	文 芸 部	季の移ろひ(短歌)	伊 達 宮 子 (仙台市)
	文 芸 部	冬 虹 (俳 句)	土 見 敬 志 郎 (利府町)
	文 芸 部	風 の 中 (川 柳)	津 田 公 子 (東松島市)
仙台市長賞	書 道 部	黜 聰 明 (篆 刻)	高 野 芳 月 (多賀城市)
	絵 画 部 (日 本 画)	行 く 秋	宮 澤 早 苗 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	強制的ニエ経ケラレル情報ト共ニun/white	高 松 和 樹 (仙台市)
河北新報社賞	書 道 部	由美子のうた(近代詩文)	狩 野 翠 桂 (仙台市)
	工 芸 部	白瑠璃泡文様水想器(ガラス)	村 山 耕 二 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	祈りートバ・バタック族一	佐々木 志津子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	消えゆく遺産 足尾銅山精錬工場-3	松 永 弘 (大和町)
	彫 刻 部	風 の 交 響 曲	阿 部 弘 子 (仙台市)
	写 真 部	昼 下 が り	杉 井 幸 子 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	文 芸 部	シーサーの口(俳句)	平 井 京 子 (大河原町)
	書 道 部	蔵 (少 字)	佐々木 華 鼎 (仙台市)
	工 芸 部	紬着物-雪解風-(染織)	安 倍 ま ゆ み (仙台市)
宮城県教育委員会教育長新人賞	絵 画 部 (洋 画)	壁 の 詩	菅 原 典 子 (仙台市)
	書 道 部	水原秋桜子の句(近代詩文)	及 川 豊 雅 (仙台市)
	書 道 部	天 変 地 異 (篆 刻)	村 山 柳 雅 (石巻市)
	工 芸 部	landscape #3 (ガラス)	岩 橋 理 恵 (仙台市)
仙台市教育委員会教育長賞	絵 画 部 (日 本 画)	遺 産 (アブシンベル神殿)	檜 森 勢 津 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	卓 上 静 物	粟 野 わ か 子 (仙台市)
	書 道 部	作 品 M (墨 象)	大 内 翠 峰 (涌谷町)
宮城県議会議長賞	絵 画 部 (洋 画)	MAYU-09	三 浦 一 博 (栗原市)
	書 道 部	寺山修司のうた(近代詩文)	丹 野 夢 草 (石巻市)
仙台市議会議長賞	絵 画 部 (洋 画)	多彩抄 9-I (版画)	郷 古 昭 三 (仙台市)
	書 道 部	劉基詩「春興外」三首(漢字)	池 田 小 沙 (仙台市)
財団法人宮城県文化振興財団賞	絵 画 部 (洋 画)	海 景	谷 地 森 真 理 子 (仙台市)
	書 道 部	稲 葉 の 秋 風 (かな)	岩 沢 芳 華 (仙台市)
	書 道 部	近 作 二 顆 (篆 刻)	藤 野 秀 一 (多賀城市)
	工 芸 部	Bowl (陶 芸)	市 岡 泰 (利府町)
	絵 画 部 (洋 画)	菊 と 秋 桜 の 古 里	丹 野 三 夫 (仙台市)
財団法人カメイ社会教育振興財団賞	彫 刻 部	繫 が り ゆ く も の	黒 沼 理 映 (美里町)
	写 真 部	聖 光	山 田 定 雄 (気仙沼市)
	文 芸 部	絵 双 六 (俳 句)	谷 口 加 代 (仙台市)
門伝勝太郎賞	絵 画 部 (日 本 画)	藤 華	富 樫 清 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	繫 が れ て	久 保 田 敏 (仙台市)
宮城県芸術祭奨励賞	書 道 部	螢 の 舞 (近代詩文)	伊 勢 一 枝 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	放たれたもの達の行方	相 澤 一 夫 (気仙沼市)
	書 道 部	晏 (墨 象)	梅 澤 四 洋 (名取市)
	書 道 部	王 漁 洋 詩 三 首 (漢 字)	遠 藤 溪 雲 (仙台市)
	書 道 部	山本兼一「利休にたずねよ」から(近代詩文)	管 桂 子 (仙台市)
	書 道 部	高 適 詩 (漢 字)	奈 須 野 青 蘭 (栗原市)
	書 道 部	野口英世に当てた母シカの手紙(近代詩文)	宮 川 多 華 (仙台市)
	工 芸 部	流 文 練 上 鉢 (陶 芸)	馬 場 興 彦 (石巻市)
	絵 画 部 (洋 画)	FRAGILE	坂 本 和 之 (大崎市)
	絵 画 部 (洋 画)	七夕とこけしと女	清 野 榮 彌 子 (岩沼市)
	絵 画 部 (洋 画)	船 だ ま り	其 田 章 (仙台市)
	写 真 部	老 舗	鈴 木 忠 一 (村田町)
	写 真 部	赤 光	片 倉 英 一 (仙台市)
	文 芸 部	記 憶 は 消 え じ (短 歌)	伊 藤 千 枝 子 (仙台市)

地域文化功労文科大臣表彰

菊田、蓬田両氏が受賞

平成二十一年度の地域文化功労文科科学大臣表彰を、県芸術協会参事の菊田翠谷氏と蓬田紀枝子氏が受賞された。表彰式は十一月六日、東京・如水会館で行われた。

地域文化功労表彰は全国各地で芸術文化の振興など地域の文化振興に功績のあった個人、団体に対してその功績をたたえ、文部科学大臣が表彰する。菊田氏は昭和四年生まれ。書家。加藤翠柳・大澤雅休に

県教育文化功労賞 芸協から7氏受賞

平成二十一年度の宮城県教育文化功労賞に芸協関係からは次の七氏が選ばれ、十一月二日、仙台国際センターで授賞式が行われた。

吾妻篤、浅井元義(絵画部) 浅沼信子、山崎泰子(工芸部) 戸田靖男(音楽部) 前原正治(文芸部) 櫻井孝一(写真部)

師事。第一回河北書道展で河北賞をはじめ、毎日書道展、日展、宮城県芸術選奨、聖グレゴリオ教皇騎士勲章を受賞。氏は近代詩文に造詣が深くその領域に独自の世界を切り開いた。平成二十一年度宮城県教育文化功労賞。平成六年に共編「近代詩文書目選」を刊行。扇畑忠雄・利枝夫妻の短歌を揮毫、仙台文学館に収蔵されている。「濯足会」主宰。河北

本選は3月29日 ピアノ・コンクール

第三十回の音楽コンクール(ピアノ部門)が今年も実施される。初級、中級、上級に分かれて予選、本選を経て、級ごとに最優秀賞、優秀賞、

書道展運営委員ほか役職多数。蓬田氏は昭和五年生まれ。俳人。俳誌「駒草」創刊主宰。阿部みどり女、八木澤高原に師事。平成六年三代目主宰を経て現在顧問。(社)俳人協会名誉会員。宮城県俳人協会・宮城県俳句協会両顧問。句集に

『野茨』(県芸術選奨) 『一文』 『青山椒』 『自註蓬田紀枝子集』 『はんでんぼく』 『俳人阿部みどり女ノート』 葉柳に『(俳人協会評論賞)』。仙台市野草園に「はんでんぼくいまは芽吹きの大樹かな」の句碑が建立されている。

奨励賞を、該当者には宮城県知事賞、仙台市長賞、河北新報社賞が贈られる。予選は二月二十一日(日)午前十時三十分からヤマハミュージック東北と、カワイミュージックショップ仙台的二会場で行われる。本選は三

県芸術協会創立45周年

草創期の10人

2月28日まで カメイ記念展示館

県芸術協会創立四十五周年を記念し、カメイ記念展示館と共催で「絵画部門草創期の10人」第一回宮城県芸術祭選抜美術展審査員」が一月十九日から二月二十八日までカメイ記念展示館(仙台市青葉区五橋、カメイ五橋ビル七階)で開催されている。

創立四十五周年を迎え第一回宮城県芸術祭選抜美術展の際の審査員十人の作品を展示し、その偉業をしのび未来への展望に役立てようと企画した。展示作品は四十数点で、作品をそろえるため苦勞もあつた。出品作家は次の通り。

- ◆61回三軌展
- ◆(絵画部)▽会員優賞(小野由貴子)
- ◆第21回しんわ美術展(岡山)
- ◆(洋画)▽奨励賞(岩澤誠一)
- ◆「別府アジアピエンナール2010」絵画(大分)
- ◆(洋画)▽入選(岩澤誠一)
- ◆2009公募ふるさとの風景展(福島)
- ◆(洋画)▽奨励賞(岩澤誠一)
- ◆第4回更科源藏文学賞(文芸部) 前原正治

濱田一堂参事が逝去

芸術協会参事の濱田一堂(徳兵衛)氏が平成二十一年六月十日脳出血のため逝去された。享年八十一歳。気仙沼市出身、白石市在住。宮城野書人会、書苑社主宰。芸術祭書道展審査員、河北書道展顧問、毎日書道展参与。書道芸術院名誉顧問。受賞に宮城県教育文化功労賞、地域文化功労文科科学大臣表彰。

月二十九日(月) 仙台市戦災復興記念館で。

①公益法人制度関連三法が施行され、すべての社団法人と財団法人は、解散する場合を除き、平成二十五年十一月までに新法人に変わらねばな

②新制度では、イ公益社団法人、ロ一般社団法人に分かれる。③公益社団法人は公益目的事業を行うことを主とする。

④公益目的事業とは、イ学術・芸芸・慈善その他公益に關すること。ロ不特定、かつ多数の者の利益の増進に寄与

⑤したがって芸協は模範的内容で適合している。公的活動を奨励する目的で税制も優遇されている。反面、行政の立ち入り検査もあり、定められた基準を満たす内容の書類を提出し、都道府県公益認定

⑥理事、評議員の定数や役割り、責任分担、会計の処理方法等は、公益と一般共に定款の変更が必要である。

法人制度変更の概要

小山喜三郎
理事長

①公益法人制度関連三法が

②新制度では、イ公益社団法人、ロ一般社団法人に分かれる。

③公益社団法人は公益目的事業を行うことを主とする。

④公益目的事業とは、イ学術・芸芸・慈善その他公益に關すること。ロ不特定、かつ多数の者の利益の増進に寄与

七種粥を炊く一月七日を七日正月という。大正月と呼ばれる年頭の年神を迎える祭儀期間を終えて、いよいよこの日から本格的に一年が始まる、の意である。七日正月を迎える前夜を六日年越しとか

どんど焼、鳥追、成木責、綱引、土竜打、なまはげ、田遊び、梵天、えんぶり等々、各地で各様の行事が催される。現在は旧暦や月遅れで営まれるも

などともいう。これは、中国の前漢時代の占いの書からきたもので、元旦を鶏日、二日を狗日、三日を猪日、四日を羊日、五日を牛日、六日を馬

日とし、七日を人日としたことと由来する。元旦から六日まで、軽重の順に家畜が並んでおり、最後に万物の霊長たる人間を配して、人間を重んじる精神を表したものと、と理解されている。人勝節というも、霊辰というも、その意である。

人間が万物のかしらであるとする考えは、洋の東西を問わず一般的である。西洋では、人間を理性的動物と称し、理性をもつ点で他の動物から質的に異なると考える。あるいは、神に似せて造られたものといつて、人間の尊厳を根拠づける。儒教でも、仁や礼を弁える人間は、禽獸に勝る存在とされる。総じていえば、人間は高度の文化を形成する点で他の生物とは異質である。鳥獸が仮に文化らしきも

柏原 眠雨 (文芸部)



新春随想

一月七日に七種粥(ななむし)を食する風習がある。邪気を払い万病を除くとして、中国から伝わったもので、すでに奈良時代から、一月七日の宮中の白馬(うまのせりふ)の節会の際に七種粥を食べる。今日では、花屋に七草の寄せ植えが置かれていたり、八百屋にパック詰めした七草が売られていたりして、わざわざ若菜摘みに出かけるまでもなく、七つの葉を用意することが出来る。古い伝統行事がこうして今に生きているのである。

六日年取りと称して、麦飯を食べて祝う地方もある。七日正月から始まるもう一つの正月は小正月と呼ばれ、餅花を飾り一年の農作業の予祝行事が行われる。十四日から十六日が小正月の中心で、

日本の正月は、このように歳神祭の大正月と農事予祝の小正月の重層構造をもつ、といわれるが、その境となる七日をまた人日とも称する。人の日、人勝節、霊辰、元七

のを持つといえるにしても、人間の営為に較べれば物の数ではない。

人間が万物のかしらであるとする考えは、洋の東西を問わず一般的である。西洋では、人間を理性的動物と称し、理性をもつ点で他の動物から質的に異なると考える。あるいは、神に似せて造られたものといつて、人間の尊厳を根拠づける。儒教でも、仁や礼を弁える人間は、禽獸に勝る存在とされる。総じていえば、人間は高度の文化を形成する点で他の生物とは異質である。鳥獸が仮に文化らしきも

人間が最も人間的な文化である。鶏や犬馬に芸術協会が組織されていないのは、創作活動の根拠となる自由とそれを自覚し活用する意識とが欠けているからである。哲学者のシエリングやハイデガーが、芸術を精神の最高の表現とみなしたように、自由の発露たる芸術こそ人間らしさの代名詞である。

人を尊ぶ新春の人日に、あらためて芸術活動の楽しさを覚えた次第である。

事務局 日誌

会務報告

11・30 理事会
○公益法人等検討委員会の検討概要について
○第46回宮城県芸術祭の入場者数等について
○第1回評議員会の開催概要について

後援

☆東北書道秀技展
11月13日～11月18日
せんだいメディアテーク
☆メゾソプラノ 斎藤みどりリサイタル
11月14日
電力ホール
☆歌いっがれゆく日本の歌ーなつかしい歌あたらしい歌
11月20日
仙台市青年文化センター
☆第38回宮城教育大学マンドリン部定期演奏会
11月21日
仙台市戦災復興記念館
☆クールリユミール第43回定期演奏会
11月23日
仙台市青年文化センターコンサートホール
☆歌劇「蝶々夫人」ブッチーニ作曲抜粋原語上演
11月27日
仙台市戦災復興記念館記念ホール
☆Garden Trioコンサート
11月28日
カワイミュージックショップ 仙台
☆こころに響く名曲の調べ
11月28日

イズミテイ21
☆第2回Stedmanmusic企画夢みる宇宙と音楽と子守歌によせて
11月30日
仙台市戦災復興記念館

☆第48回洗心書道展
12月2日～12月5日
仙台市民会館展示室

☆第17回宮城シニア美術展
12月3日～12月6日
宮城県美術館県民ギャラリー1

☆竹響II
12月4日
イズミテイ21小ホール
☆新藤典子・チェンバークワイアクリニックス仙台ジョイントリサイタル
12月5日
仙台青葉荘教会

☆第2回河北新報「小・中学生新聞紙上展」
12月11日
河北新報朝刊紙上

☆仙台台日伊協会クリスマスコンサート
12月16日
仙台市戦災復興記念館記念ホール

☆第4回宮城一先会、かな書作展
12月17日～12月20日
東京エレクトロンホール宮城5階展示室

☆第27回メサイア(救世主)演奏会
12月18日
仙台市青年文化センターコンサートホール

☆東北書道新春選抜展
1月8日～1月13日
せんだいメディアテーク

☆チャールズ会仙台絵画小品展
1月13日～1月17日
東北電力グリーンプラザプラザギャラリー SOUTH
☆武蔵野美術大学校友会第18回宮城支部展
1月15日～1月20日
せんだいメディアテーク

☆第42回社団法人創元会宮城県支部展
2月5日～2月10日
せんだいメディアテーク
☆第5回Dance Competition Sendai 2010
2月6日～2月7日
仙台市青年文化センターシアターホール
☆第16回東北新象展(北上展)
2月7日～2月14日
北上市民交流プラザ
☆第27回白土会展
2月19日～2月24日
せんだいメディアテーク
☆建部恭子書作展「白と黒の語らい」
3月26日～3月31日
せんだいメディアテーク
☆第5回ALL NIPPON DATE クラシックバレエコンペティション MIXAGI
3月29日～4月1日
仙台市青年文化センターシアターホール
☆第56回全国公募東北書道展
4月16日～4月21日
せんだいメディアテーク
☆三浦韻山開軒50周年記念演奏会
4月18日
仙台市福祉プラザふれあいホール
☆新藤典子パイプオルガンの調べ
4月21日
仙台青葉荘教会
☆第74回河北美術展
4月23日～5月5日

受贈書

藤崎本館7階催事場8階ケリンルーム
句集「一人です」(山田桃晃)、「みやぎ工芸美術への歩み」(高倉健)、歌集「波の輪」(桂重俊)

退会会員

〔絵画〕(日本画)安住順子(洋画)高野壽子、鈴木一芳、佐藤俊光(工芸)「七宝」草川周子「書道」栗野松雲(富士雄、小松佳河(佳明)、佐藤さだ子「華道」(池坊)太田華朝(朝)「小原流、菊地華正(正)〔音楽〕(洋楽)小池まどか(長唄)伊藤克子「文芸」(短歌)平間大子、五十嵐美恵子(川柳)後藤孝(小説)田中陽子「茶道」(表千家)豊田宗和(和子)、佐々木宗隆(隆子)「裏千家」大泉宗恭(恭子)、菊池宗盛(盛子)「武者小路千家」小川泰子(清泉幽茗流)加藤純縁(洋子)「賛助」菊地伸治

謹 弔

文芸部 (俳句) 石塚滴水殿
平成21年10月19日
文芸部 (短歌) 遠藤正殿
10月20日
音楽部 (長唄) 杵屋和加寿美栄殿
12月5日
書道部 島山青風殿
12月13日
賛助会員 日置道閑殿
12月23日

けやきの譜

真夜中、ふと目が覚める。来し方行く末など大げさなものではない、就寝までの一日を思い返したりする。届いた賀状の名前と顔が浮かぶ。年が改まったのを実感する。それもしばし、また眠りの淵に陥っている。▼「昼には青空が嘘をつく/夜がほんとうのことをを呟く間私たちは眠っている/朝になるとみんな夢をみたといい」谷川俊太郎二十歳代初めの詩集「六十二のソネット」の一篇の最終フレーズは、若々しい感性・認識を巧まずしてうたう▼夢ではない今日まで多くの人に出会った。別れもあった。それらの人々はすべて宝であり、貴重な財産である。そう信じつつ地球の上での絶えない戦いや卑劣な犯罪まで許す気にはとてもなれない▼普通であるとはどういうことか、そして個性とは? 独りではないこの地球という星の上の六十五億人。自己中心で時を送ることを非難はできない。と年頭にこんな殊勝な思いに浸れるのも健康の賜物なのだろう。(純)